

公立病院経営改善事例等実務研究会



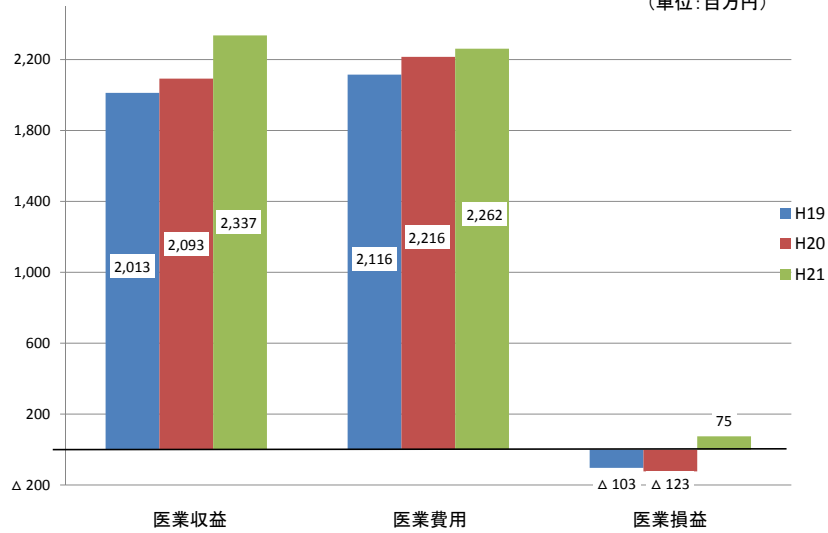
大分県豊後大野市民病院

二次医療圏における豊後大野市民病院の位置図



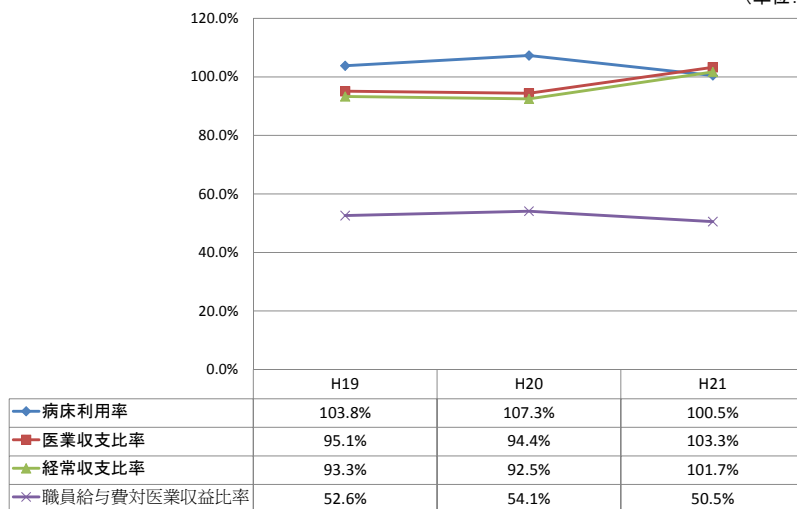
過去3年間の医業収益・費用の状況

(単位:百万円)



過去3年間の病床利用率、医業収支比率、経常収支比率、職員給与費対医業収益比率の状況

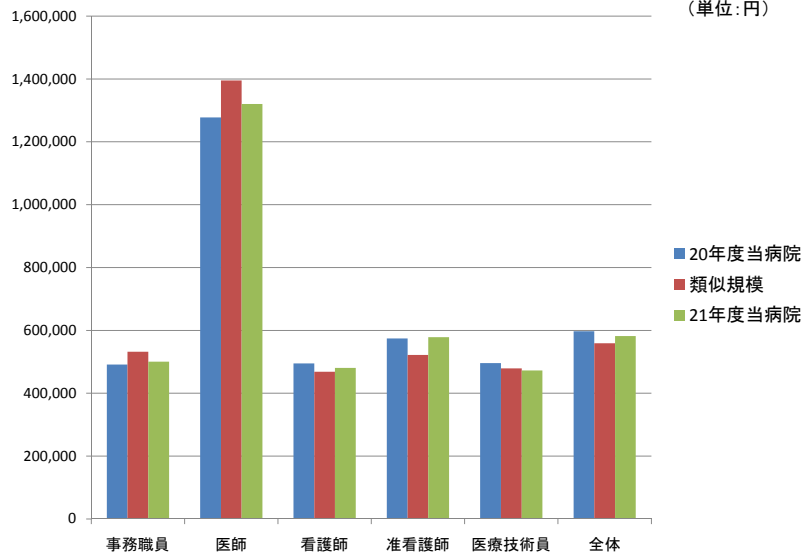
(単位:%)



※病床利用率については、一般病床(感染症病床含む)のみの利用率を記載

職種別職員平均給与の状況(及び類似規模との比較)

(単位:円)



公立おがた総合病院と県立三重病院の医師数の変遷

公立おがた総合病院の医師数(常勤)

診療科 \ 年度	H18	H19	H21
内科	4	0	3
外科	4	4	4
整形外科	2	2	2
小児科	2	2	2
泌尿器科	1	1	1
産婦人科	1	0	0
脳神経外科	1	1	1
麻酔科	0	1	1
眼科	1	1	1
計	16	12	15

(※1)

(※1:平成21年度には「産婦人科」に常勤嘱託医が1名いる)

県立三重病院の医師数(常勤)

診療科 \ 年度	H18	H19	H21
内科	10	11	9
外科	3	2	2
整形外科	2	1	1
小児科	1	2	1
計	16	16	13

主要指標の類似病院との比較

都道府県名 大分県
 市町村・組合名 豊後大野市
 病院名 おがた病院

【施設及び業務状況等】

指定病院の状況	救 臨 へ	
看護配置	13:1	
病床数	一般	104
	療養	40
	結核	0
	精神	0
	感染	4
合計	148	
平均在院日数	19.8 日	

【経営指標】(平成20年度)

(単位:%、円)

項目	当該病院	類似病院平均
経常収支比率	92.5	93.4
医業収支比率	94.4	85.5
実質収益対経常費用比率	89.0	80.1
病床利用率	94.6	68.3
患者1人1日当たり入院収入	25,063	27,744
患者1人1日当たり外来収入	6,985	8,329
職員給与費比率	54.1	58.3
材料費比率	18.6	20.4

【グラフの見方】

- * 類似病院経営指標の平均値を100とした場合の当該病院経営指標数値の割合を示したものである。
- * 当該病院の経営指標数値が類似病院の平均値を上回っている場合(職員給与費比率及び材料費比率については下回っている場合)に、点線の外側に表示される。

【収支構造】

- 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
 病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上であることが望ましい。
- 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
 医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上であることが望ましい。
- 実質収益対経常費用比率 $(\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}) \div \text{経常費用} \times 100$
 経常費用が経常収益から他会計繰入金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が100%以上であることが望ましい。

【収入構造】

- 病床利用率 $\text{年延入院患者数} \div \text{年延病床数} \times 100$
 病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒定的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要がある。
- 患者1人1日当たり入院収入 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- 患者1人1日当たり外来収入 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
 病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と患者1人当たりの収入という質的な要素が重要になる。

【費用構造】

- 職員給与費比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
 病院において職員給与費は最も大きなウェイトを占める医業費用。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなる。
- 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
 医業費用で職員給与費に次いで大きなウェイトを占めるのが材料費。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。

主要指標の類似病院との比較

都道府県名 大分県

市町村・組合名

病院名 三重病院

【施設及び業務状況等】

指定病院の状況	救 臨 へ 災 輪	
看護配置	10:1	
病床数	一般	165
	療養	0
	結核	0
	精神	0
	感染	0
合計	165	
平均在院日数	17.6 日	

【経営指標】(平成20年度)

(単位:%、円)

項目	当該病院	類似病院平均
経常収支比率	84.6	93.4
医業収支比率	79.8	85.5
実質収支対経常費用比率	78.9	80.1
病床利用率	56.8	68.3
患者1人1日当たり入院収入	30,458	27,744
患者1人1日当たり外来収入	8,695	8,329
職員給与費比率	75.0	58.3
材料費比率	22.8	20.4

【グラフの見方】

* 類似病院経営指標の平均値を100とした場合の当該病院経営指標数値の割合を示したものである。

* 当該病院の経営指標数値が類似病院の平均値を上回っている場合(職員給与費比率及び材料費比率については下回っている場合)に、点線の外側に表示される。

【収支構造】

○経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$

病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上であることが望ましい。

○医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上であることが望ましい。

○実質収支対経常費用比率 $(\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}) \div \text{経常費用} \times 100$

経常費用が経常収益から他会計繰入金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が100%以上であることが望ましい。

【収入構造】

○病床利用率 $\text{年延入院患者数} \div \text{年延病床数} \times 100$

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要がある。

○患者1人1日当たり入院収入 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$

○患者1人1日当たり外来収入 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$

病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と患者1人当たりの収入という質的な要素が重要になる。

【費用構造】

○職員給与費比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$

病院において職員給与費は最も大きなウェイトを占める医業費用。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなる。

○材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$

医業費用で職員給与費に次いで大きなウェイトを占めるのが材料費。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。